



AIDS UPDATE

No.143 2025/1/23

発行者：広島大学病院 エイズ医療対策室 内線5351



第15回中国四国地方HIV陽性者の 歯科診療体制構築のための研究会議

歯科保存診療科 歯科医師 中西 惇

2024年11月10日(日)岡山国際交流センターにて第15回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議が開催されました。会議当日は早朝から岡山と四国を結ぶ鉄道が運休となるアクシデントにも見舞われましたが、四国からも多くの先生方にご参加いただき、滞りなく会議が開催されました(高知県から車で駆けつけてご参加いただいた先生もいらっやって、頭が下がる思いでした)。

本会議の目的は『HIV陽性者がどこの歯科医院でも気兼ねなく歯科診療を受けることができる歯科診療体制の構築』であり、毎年開催されており今回で15回目となります。内容はHIV診療の最前線でご活躍の先生からHIV感染症の最近の知見に関する講演、大阪HIV薬害訴訟原告団の方からのお話、中四国地方の各歯科医師会におけるこの1年間のHIV陽性者の歯科診療体制構築に関する活動と現状報告、など多岐にわたり、これらを通して各歯科医師会の次の1年間の活動に活かしていく場となっております。その足掛かりとして、現在、歯科診療を希望されるHIV陽性者がエイズ治療拠点病院から歯科医師会の窓口を通じてHIV陽性者歯科診療ネットワークに登録されている協力歯科医院を紹介し、受診するシステムが運用されています。しかしながら、まだネットワークが構築できていない、あるいは構築されているが運用がうまくいっていない県もあるなど課題も多い中で、今年度の会議では、これまでとは異なる新規のネットワークシステムを行っている県の活動報告など、今後の積極的なネットワーク構築、運用の促進につながるのではないかと感じる話題提供もありました。

本会議の最終目標はこういったネットワークを利用せずとも、HIV陽性者が他の患者さんと同様に気兼

ねなく歯科医院に通院できる歯科診療体制の構築ですが、まだまだ道半ばです。HIV感染症に関する正しい知識の各歯科医療機関、スタッフへの周知、ネットワークの構築と運用の促進、また各県内における協力歯科医院分布の偏りの解消、など実現すべき多くの課題があります。当院の血液内科の先生方をはじめ治療に携わられている先生方の長年の努力によりHIV感染症は早期に治療が行われれば発症することがほとんどない疾患になっています。歯科診療を行う際、HIV陽性者である患者さんに対してスタンダードプリコーション以外の特別な感染対策は必要ありません。また針刺し事故等でHIVに曝露されたとしても、感染が起こることはほとんどなく、それに加え万が一の感染を予防する対応のフローチャートも確立しております。この場をお借りして本会議の概要をご報告させていただくとともに、今後も拠点病院で歯科診療に従事する歯科医師として、本会議を通じて得た最新の知見を基に、『HIV陽性者がどこの歯科医院でも気兼ねなく歯科診療を受けることができる歯科診療体制の構築』に向けた地道な活動を続けて参りたいと思います。



広島大学病院のメンバーと

最新TOPICS 【マイナ保険証】



マイナンバーカードでの 保険証利用がはじまりました!!

エイズ医療対策室 ソーシャルワーカー 重信英子

平成27年からマイナンバー（個人番号）通知が始まったマイナンバーカードは、令和3年に健康保険証としての利用ができるようになりました。そして、ついに令和6年12月2日からは新規での健康保険証の発行を廃止し、保険証の情報がマイナンバーカードに紐づけられることで、マイナンバーカードを保険証として運用していくことになりました。カードをお持ちでない方は「資格確認書」が無料で交付されるので、それを医療機関に提示することで受診ができます。

制度の目的としては、**〈過去の健康診断の結果や、治療・薬の情報を医療者に提供することで、より良い安全な治療を受けられるようにする〉**ことです。また、保険証としての利用をするにはマイナポータル

と紐づける必要があります。マイナポータルとは政府が運営しているオンラインシステムで、行政制度の案内や、行政が保有する自身の情報をスマホなどから確認することができます。とは言っても新しい制度ですので、不安に思うこともあるかと思いますが、そこで、新制度利用に関するQ&Aにお答えしますので、安心してご利用を検討していただきたいと思います。ご不明時は、ソーシャルワーカーか受付スタッフまで。



①マイナンバーカードを取得するには？

マイナンバーは、日本に住民票を有する全ての国籍の方に通知され、生涯番号は変わりません。その番号が記載されたものが、マイナンバーカードです。カードは、自治体で誰でも希望すれば無料で取得することができます。



医療機関のカード読み取り機で読み込んだ情報は、24時間しか閲覧できません。

②マイナ保険証を使うと何が知られる？

病院や薬局受診時に提示する際、カード読み取り機で以下の質問に答えます。

1) 処方されている薬を共有しますか？

2) 健康診断の結果を共有しますか？

(*40歳以上のみ)

3) 高額療養費を利用しますか？

自分で共有・利用希望は選択できるので、薬剤名や治療内容で病名が知られるのを防ぎたい方は、「しない」を選択することができます。

③マイナ保険証のメリットは？

1) 転居や転職直後でもすぐ利用できる

これまでは、転職後に新たな保険証をもらうには2週間程かかることもありましたが、届くまでの間に病院を受診すると、自己負担は一旦10割で支払うか、事前に職場に「健康保険被保険者資格証明書」を申請する必要があり、これも日数を要していました。

マイナ保険証だとこれらの煩わしさが無く、そのまま保険証として利用することができるので、保険変更後も医療費の心配をすることなく安心して受診ができます。

2) 高額療養費制度の事前申請が不要

入院や外来治療で高額な医療費が請求される際、所得に応じた自己負担金額に請求額を抑える制度が高額療養費制度です。利用するには、事前に加入する保険機関に「限度額認定証」を申請する必要があり、認定証を手にするまでに日数を要していました。

マイナ保険証だと、書類で申請することなく、病院や薬局の窓口にあるカード読み取り機で【高額療養費制度を利用する】を選択するだけで、限度額までの医療費しか請求されません。

レッドリボンキャンペーンイベント検査の参加報告

エイズ医療対策室 臨床心理士／公認心理師 杉本 悠貴恵

皆さま、こんにちは。突然ですが、12月1日は何の日かご存じでしょうか。この日は『世界エイズデー』ということで、全世界でエイズのまん延防止と陽性者に対する差別・偏見の解消を目的にWHOが制定し、世界各国で啓発活動が行われています。

今回、広島では12月5日【レッドリボンキャンペーン】ということでステージやHIV・梅毒の無料検査イベントが開催され、私もスタッフとしてお手伝いをさせていただきました。検査には、たまたまイベントの様子を見て、受検に来られた方、定期的に検査を受けている方、感染が心配で受検に来られた方など、40名以上の方が受検に来られました。

初めて受検するという方も多く、検査の流れの説明とともにHIVの感染経路や性感染の情報をお伝えすると、驚かれる方もいらっしゃいました。その様子を見て、性感染症は予防ができることや治療法があること、身体を守るために検査の必要があること

をもっと発信していかないといけないなと感じました。

実は、このイベント、毎年の恒例行事でしたが、コロナで中止となっていたのですが、5年ぶりの復活に向けて広島市の方を中心に準備をさせていただきました。HIV/AIDSへの差別・偏見の解消に向けて、これからも取り組んでいければと感じた一日でした。



第38回日本エイズ学会学術集会・総会参加報告

エイズ医療対策室 ソーシャルワーカー 浦島 藍子

この度初めて、東京都新宿区で開催された第38回日本エイズ学会学術集会・総会に3日間参加しました。私が今回印象に残ったのは、1日目の1番最初に聞いたシンポジウム「HIVとともに生きる人はどこまで強くならなければならないのか？」です。患者が持つ強さや弱さ、力（エンパワメント）とは何なのかを医療者・研究者・支援者等多領域のシンポジストから話を伺いました。

自身を振り返って、弱さだと感じた所も認めることによって強さになり、力へと変わっていくことを支援実績を積まれたシンポジストの力強い言葉から学び得ることができました。患者だけでなく、医療職や地域でも同様に力の変化は起こります。この学会で学んだことを活かし、支援者である私も力の変化を起こしていきたいと思います。

また、この学会を通して様々な県のソーシャルワーカーとの繋がりができたことは、全国に仲間ができたようでとても嬉しく思いました。2日目の夜には、東京のソーシャルワーカーに新宿2丁目を案内していただき、aktaコミュニティーセンターへ伺いました。とても居心地の良い空間で、利用する方にとって安心できる居場所となっているように感じました。

初めてのことで混乱することもありましたが、興味深い話ばかりで充実した3日間となりました。

新宿2丁目akta前の風景



11月28日から3日間、京王プラザホテルで開催された日本エイズ学会学術集会に参加しました。

初参加の私は、「学会が開催される頃は寒い」という噂を耳にしていたため、完全防寒の準備を整え、27日に広島を出発しました。

しかし、この日の東京は20℃を超える暖かさで快晴。「3日間とも晴れるといいな～」と思ってはいましたが、まさか汗をかくほどの陽気になるとは想像していませんでした。

さて、学会では「HIVに関わるすべてのコミュニティをエンパワー、感染症による人々の分断を終結」というテーマの通り、さまざまな立場の方々が参加されていました。特に、展示会場では当事者の方や支援団体の方と直接お話しできる機会があり、この学会ならではの魅力を実感しました。

また、シンポジウムや一般演題を拝聴する中で特に印象に残ったのは、「高齢化」に関する議題です。「長期療養」が可能になったことで新たに直面する課題に、当事者や支援者がどのように向き合い、つながっていくべきなのかを深く考えさせられました。

プログラムの合間には、HIV医療チームの心理師

メンバーとともに東京都庁を訪れ、話題のプロジェクトアクションマッピングを鑑賞したり、展望室からの美しい日没を堪能しました。また、都庁1階の展示スペースでは、HIV啓発に関するパネル展示やパンフレットが用意されており、周囲の電柱にも啓発ポスターが掲示されるなど、地域社会への意識啓発に取り組む姿勢がうかがえました。

来年は12月5日から7日にかけて熊本城ホールでの開催が予定されています。

次回もぜひ足を運び、参加したいと考えています。



都庁の展示



学会中の新宿の街並み

エイズ医療対策室 看護師 後 藤 志 保

課題名「HIV外来診療における患者ニーズの検討—電子問診票導入時に行った患者調査から」でポスター発表を行いました。本学会での発表は2回目ですが、前はコロナ渦でオンラインでの発表だったため現地開催での発表は今回が初めてでした。

中核ブロック拠点病院で日頃からお世話になっている方々がポスター閲覧にきてくださり、意見交換やお悩み相談に乗っていただき、心強いお言葉をいただきました。学会でこんなに全国の知り合いに会えるなんてエイズ学会ならではの感覚を感じ、中核ブロック拠点病院の繋がりの強さやあたたかさを感じました。全く存じ上げずの方も数名ポスター閲覧にき

てくださり、お声がけしてみようとドキドキしていましたが人見知りの私は勇気がなく…。ちょっと心残りはありますが学びも多く他施設の方との交流もでき、充実した学会参加でした。



ポスター発表の様子



先輩方と！